

# 1. 調査報告概要表

作成日 2010年4月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072100447
法人名	社会福祉法人 恵林
事業所名	グループホーム りすの国
所在地	群馬県高崎市井出町1280-3 (電話) 027-344-9881
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年2月3日

【情報提供票より】(21年12月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	1 人
常勤換算	12 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建て
	3階建ての 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(12月22日現)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.4 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	真木病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「・・・十人十色の生活を」の理念を基に、利用者が主役の一人ひとりの生活が守られているホームである。家庭生活の延長としての生活支援を一人ひとりのペースに寄り添いながら行っている。今までの生活の基本となっていた、食事、入浴、排泄がきちんと支援されていて、安心して生活できるホームである。そこには、利用者でもなく、職員でもなく、大きな大家族の一員としての共有した時間が流れ、利用者のできる力を大事にしながら、明るくゆったりと生活している様子がうかがえた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題であった市町村との連携は代行申請で窓口を訪問するようにして、連携の機会を持つつある。同業者との交流を通じた向上は、まだ改善には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・リーダー・職員は評価の意義を理解しているが、今回の自己評価は管理者・リーダーが作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所から活動状況や行事・入退所者の報告がされ、出席者からの意見や希望を受け、話し合いを行っている。グループホームとしての足りない部分のアドバイスを意識的にしてもらい、意見等はサービスの質の向上に活かしている</p>
重点項目③	<p>毎月「こりす便り」を発行し、日常の様子等を家族に報告している。運営推進会議時や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や希望等聴くように努めている。家族から面会時に日常生活の報告をしてもらいたいとの希望が出されプランに盛り込む等でお出された意見等には速やかに対応し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の育成会の廃品回収に協力したり、スーパー・理美容院・地域の祭りへの参加等で声をかけてもらい連携に努めている。近隣の人達と散歩時に挨拶を交わしたり、野菜や花等を頂き、日常的なお付き合いを大切にしている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を職員皆でつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、申し送り時や職員会議等で理念の唱和を行い、地域との関係性を確認している。日々の生活の場(地域への買物等)において、地域の状況を理解し、理念の実践に向けて取り組んでいる。理念は事務所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の育成会の廃品回収に協力したり、スーパー・理美容院・レストランを利用したり、地域の祭りに声をかけてもらい参加して連携に努めている。近隣の人達と散歩時に挨拶を交わしたり、野菜や花等を頂き、日常のお付き合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しているが、今回の自己評価は管理者・リーダーが作成した。外部評価の結果については、職員に報告し、話し合いを持ち、具体的な改善を検討中である。	○	自己評価は日ごろのサービスの振り返りにもなるので、全職員で作上げてほしい。また、評価の結果を踏まえ、全職員で改善に向けてさらに取り組むことを期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には利用者家族・市職員・民生委員・事業所職員等が参加している。事業所から活動状況や行事・入退所者報告がされ、出席者からホームの足りない部分のアドバイス等や要望・希望を受け、話し合いを行っている。そこでの意見等はサービスの質の向上に活かしている。全家族に開催のお知らせをお便りに盛り込み通知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。代行申請で窓口に出向き、担当者にアドバイスをもらったり情報交換を行う等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶり、新入職員紹介等を報告している。毎月発行している「こりす便り」で日常生活の報告を行っている。金銭管理報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等聴くように努めている。家族からは日常生活の報告の希望やウォシュレット設置希望、同性介助希望が出て、改善や説明を行い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動がある。新入職員は1ヶ月くらいで日勤業務を覚えて、夜間勤務に入ってもらおう。リーダーが見極めを行う。3ヶ月間は日誌をつけてもらっている。利用者へのダメージを防ぎ、馴染みの関係が築かれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき法人内研修は全員が参加した「安全確認トレーニングシートで危険予防研修」や「ストレスケア」「事故対策リスクマネジメント研修」「事例研究」等毎月行っている。外部研修では介護職員基礎研修やスキルアップ研修等に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。他のグループホームとの交流も持ったことはあるが、現在は特に交流はない。	○	管理者・リーダー・職員が他法人のグループホームと交流を行い、サービスの質の向上に役立てる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの場合は入居前に、本人・家族等に居室や施設内を見学してもらっている。病院・施設からはホームから出向き入居に繋げている。家族にはホームは家庭の延長であることを説明し、それまでの生活を大切にしながら少しずつ慣れてもらえるように働きかけている。入居後も、本人が不安にならないように、家族の宿泊支援等で家族の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭なので家庭らしくを基本に、母の日・父の日にはお花を贈り感謝し、晩酌を楽しんだり、新聞をとったり、外食に行ったり、希望による別室での食事等、職員は料理、掃除の仕方、生き方等を教えてもらい、共に暮らし支えあう関係づくりに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お酒の好きな人にはお酒が提供され、別室での食事、夜間入浴等で基本的に好きなもの・好きなこと・好きな環境を楽しんでもらっている。日々のかかわりの中で、拒否や表情や会話等からカンファレンスで検討し意向の確認を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制になっている。本人・家族の意向を確認し、月に1度のユニット会議にかけて「報連相ノート」を活用し、職員の意向も聞き、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しについては、3ヶ月～月1回のモニタリングを参考に、職員間で意見交換をしながら、カンファレンスを経て3ヶ月に1度の見直しと随時の見直しに繋げている。本人・家族等の意向や状況を確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度のモニタリングを行い、介護計画の見直しに繋げてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
okonai					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の要望や状況に応じて、墓参りや家を見に行ったり、通院支援、買物支援等で柔軟に対応している。家族が宿泊できる体制となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則はかかりつけ医となっている。協力医療機関とも連携を図り、皮膚科の往診や夜間の歯科往診支援もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応の「看取りに関する方針」が文書化されている。看取りの経験もあり、協力医療機関と家族の協力を得ながら、話し合いを重ね、関係者全体で方針を共有する体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、排泄時等の言葉かけや対応には、「小さな声での声かけ」を行うようにしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図り、入職時に誓約書を交わしている。個人記録等は事務室で適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのできる力を大切にして、その人・その日・その時の状態や気持ちを尊重しながら、晩酌や別室での食事、おしゃれ等、できる限り個別の支援を行い、その人らしく過ごしてもらえるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒に調理をしている。希望のメニューやおせち料理作りやおはぎ作り・節分の恵方巻き作りで家庭での食生活を大事に継続させている。バーベキューや流しそうめん・お茶をテラスで楽しんだり、回転寿司、和食、ケンタッキーや喫茶店にも出かけている。誕生日には手作りケーキでお祝いをしている。職員は利用者と共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴支援だが、毎日の入浴にも対応できる。家庭での入浴時間を考慮して、午後から夜の入浴支援を行なっている。一番風呂に誘ったりしながら、タイミングを計って入浴支援に繋げている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、野菜の下ごしらえ・食事の盛り付け・食器拭き・野菜作りと収穫・おしぼりたみ・ゴミを集める等の役割を持ち継続できるよう支援している。母の日・父の日にお花を贈り、餅つきやどんど焼き・初詣等季節の行事、梅見や日光浴・お茶会・梯子乗り見学・ボランティアの慰問等で楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日買物に出かけ、天気の良い日には、ウッドデッキでお茶や歌を楽しみ、散歩や近隣への花見等、日常的に外出支援が行われ気分転換が図られている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、見守りを徹底しながら安全面に配慮し、日中玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。事務所・ウッドデッキは利用者が自由に出入りできるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼夜を想定した避難訓練が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録がある。水分摂取の目安を1000～1200ccと定め、自室で摂取した量を除いた総量が把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の大きな窓から広いデッキに出られ、そこには鳥が訪れている。食堂からは台所の調理の様子が見え、楽しい待ち時間が過ごせる。テーブルが6つに分かれていて、それぞれ利用者が作業をしたり、会話を楽しんでいる。家庭的な雰囲気の中で、解放的な自由な居場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、テーブル、たんす、仏壇、位牌、ポット、急須等が持ち込まれ、いつでも来客を迎え、お茶が入られる部屋もある。一人ひとりの持っている力を発揮してもらいながら、本人本位の生活や見守りの生活が営まれている。		